

## 交換留学定期レポート

生物資源科学部農林生産学科

3回生 小此木颯太

### 背景および目的

本レポートでは、私がアメリカ・フロリダ大学において4か月間の交換留学中に経験したことについて述べる。今回は履修している授業や生活環境、大学で体験したことを中心に報告する。

### 留学生活の概要

現地に到着してから約1か月が経過した。フロリダの気候は寒暖差が激しく、事前に聞いていた印象よりも肌寒いと感じている。普段の生活では自炊を行っているが、友人に誘われて外食に行くこともある。住居は学生寮でルームメイトと2人部屋で生活している。フロリダ大学の敷地は非常に広く、学内には湖も点在しており、植物や野生生物など多様な生物が生息している。特にリスはキャンパス内外の至る所で見られる。また、運が良ければ学内でワニを見ることができらしい（まだ目にしたことはない）。

### 履修科目および授業内容

授業は2週間前から始まり、主に週2回の講義と週1回のディスカッションで構成されている。2026年の春学期では以下の授業を履修している。

- ① SYG2000-Introduction to Sociology
- ② FOS2001-Man's Food
- ③ INR2001-Introduction to International Relations
- ④ LIN2011-Introduction to Linguistics

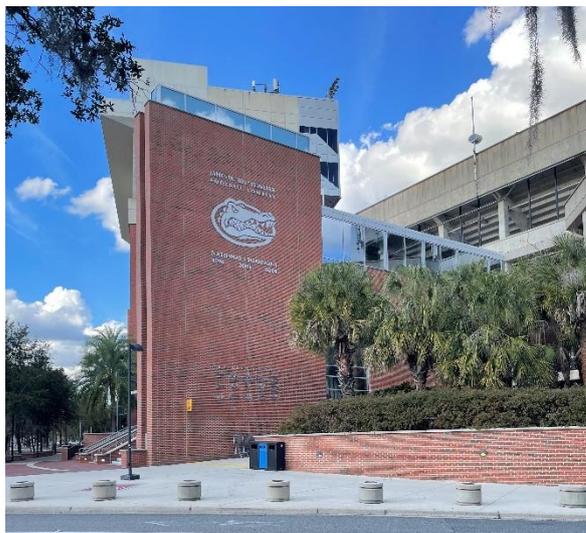
どの授業においても、課題に対して個人で考えるだけでなく、グループでディスカッションを行い、さまざまな意見を取り入れながら解決策を検討する形式が多い。そのため、自分の意見を伝える力や、相手の意見を聞いて考える力が求められる。しかし、私はまだ自分の意見を十分に表現できない場面が多く、実際の講義を通して、英語を理解することや相手に自分の考えを伝えることの難しさを実感した。今後は、目標とするコミュニケーション能力を身につけるために、英語学習の質と効率をさらに高めていく必要があると感じている。

## 休日の過ごし方および課外活動

休日は図書館や自宅で過ごすことが多いが、友人とジムに行き、体を動かすことも習慣の一つである。フロリダ大学には小規模なジムと大規模なジムの2つがあり、小さい方は徒歩10分ほどの距離にあるが、大きい方は約40分かかる。休日には主に大きい方のジムでトレーニングを行っている。また、クラブ活動への参加や、現地の農場を見学させてもらう機会もあった。農場では、日本ではあまり栽培されていない植物や作物、栽培法の違い、味の違いなどを通して、アメリカの農業を実際に体験することができた。

## まとめ

この1か月間でアメリカの文化に触れることができた一方、異なる言語によるコミュニケーションの難しさも強く実感した。今後は、コミュニケーションの能力向上に努めるとともに、より充実した経験を積極的に重ねていきたいと考えている。



(ワニがシンボルのスタジアム)



(学内を散歩しているリス)